

J R 上野公園口前における最終案が未定な整備工事に伴う懸念についての陳情

J R 上野駅・上野公園口前の広場は、駅から上野恩賜公園エリアへの入口であるとともに、平成28年度に世界遺産登録された国立西洋美術館、および前川國男によるモダニズムの名建築である東京文化会館に隣接した場所です。歴史的・文化的・自然的遺産に満ちた上野公園において、最も重要なエリアの一つであると言えます。

現在、この上野公園口前において、平成20年の「上野公園グランドデザイン検討委員会報告書」、およびこれを受けて作成された「上野公園再整備計画」に基づき、東京都の東部公園緑地事務所（上野公園事務所）が主体となって再整備のための工事が進められています。

しかしながら、工事の基となるこの検討会報告書および再整備計画は、あくまで上野公園の大まかな整備方針を検討したものであって、具体的な実施設計については未だ確定されたものが提出されておらず、現行の公園口前工事は、最終的な設計案が未確定および未公開の状態において行われていることとなります。公園口前には二つのロータリーを設ける予定になっていると聞いておりますが、現場管理を担当する上野公園事務所においてさえ、当方にて直接問い合わせ確認をした限りでは、最終的な完成状態の全体像が把握されておらず、いわば「行き当たりばったり」に工事が進行しているのが現状です。

こうした中、工事用の仮設道路を造るとの理由にて、公園口近辺の樹木を多数伐採する工事が進められていました。有志による危急の申し入れにより、現在この工事は一時停止をしている状態がありますが、上野公園の貴重な樹木が、本当に必要があるのかどうか不明瞭なまま伐採されようとしていた状況に、私たちは強い危機感を抱くことになりました。

私たち陳情者は、具体的な実施設計と最終的な全体像を欠いたこの先行工事によって、公園の樹木が不必要に伐採される可能性があることを危惧します。また、この工事による新しい上野公園口前の姿が、上野公園への入り口に本当にふさわしいものになるかどうかについても、「行き当たりばったり」に工事が進行している現状においては深く憂慮せざるをえません。

台東区行政におかれましては、まずは現在進められている工事についていったん立ち止まり、最終的な駅前再整備の具体的なデザインを明らかにするよう、東京都に対して求めることを希望致します。また、上野公園に関わる様々な地元の団体やネットワーク、区民、利用者などと広く協働することにおいて、駅前の新しい姿についての検討がなされることを望むところです。

平成29年1月30日

台東区議会議長

太田 雅久 殿